



五代友厚と大阪取引所

五代友厚は、1836(天保6)年薩摩国に生まれました。薩摩藩に出仕後は、長崎での遊学や、上海への派遣などにより海外事情にも精通し、明治維新後は、大阪で官職に就いて大阪造幣寮(現 造幣局)等の設立に尽力します。その後、民間に転じ、紡績業、鋁業、鉄道業などを幅広く手がけ、事業を大きく発展させました。こうした起業家としての側面を持つ一方、いわゆる大阪会議を主宰するなど、草創期の明治政府にも大きな影響を与えています。

さらに、江戸幕府の終わりとともに廃止されていた堂島米会所(世界初の組織的デリバティブ取引所)の復興や、大阪証券取引所(現 大阪取引所)の前身である大阪株式取引所の発起人となり設立に尽力、また大阪商法会議所(現 大阪商工会議所)を設立し初代会頭に就任するなど、その後の大阪の発展の礎となる経済的基盤構築にも熱心に取り組みました。

このように、五代友厚は、近代大阪の経済発展に多大な足跡を残し、1885(明治18)年に没しましたが、当時東京において東京商法会議所(現 東京商工会議所)等を設立した渋沢栄一と比肩する人物として、「西の五代、東の渋沢」と称され、今なお語り継がれています。

大阪取引所では、こうした五代友厚の功績を讃え、当社発祥の地を顕彰する碑を建立しております。五代友厚の功績や、旧市場館前に建立しております五代友厚像をご紹介します。

株式会社日本取引所グループ
株式会社大阪取引所



商都大阪を築いた五代友厚

■ 現在までつながる功績の数々

五代友厚は、商都大阪の発展に貢献し、明治維新後低迷していた大阪の地位を復興させたものと高く評価されています。

大阪取引所



大阪取引所外観

株式取引所条例の成立を受けて、大阪株式取引所(現 大阪取引所)の設立発起人となり尽力。

大阪商工会議所



大阪商工会議所外観

大阪取引所設立と同年、大阪商法会議所(現 大阪商工会議所)を設立し初代会頭を務めた。

大阪造幣局

大阪造幣局 提供



造幣局全景 1873(明治6)年マンチニ描



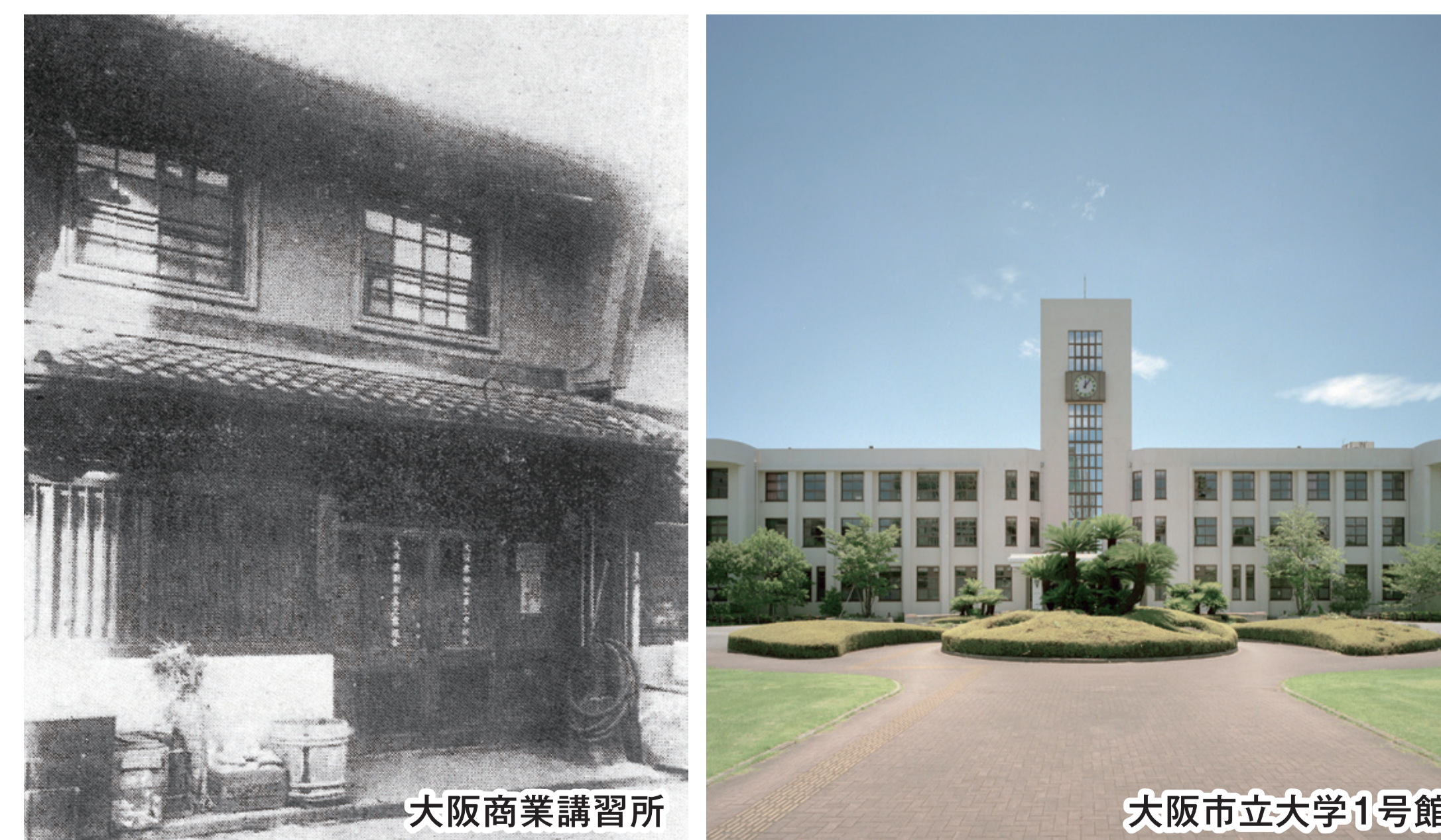
造幣局本局外観

フランス製圧印機

官僚として造幣寮(現 造幣局)の設立に尽力。

大阪市立大学

大阪市立大学 提供



大阪商業講習所

大阪市立大学1号館

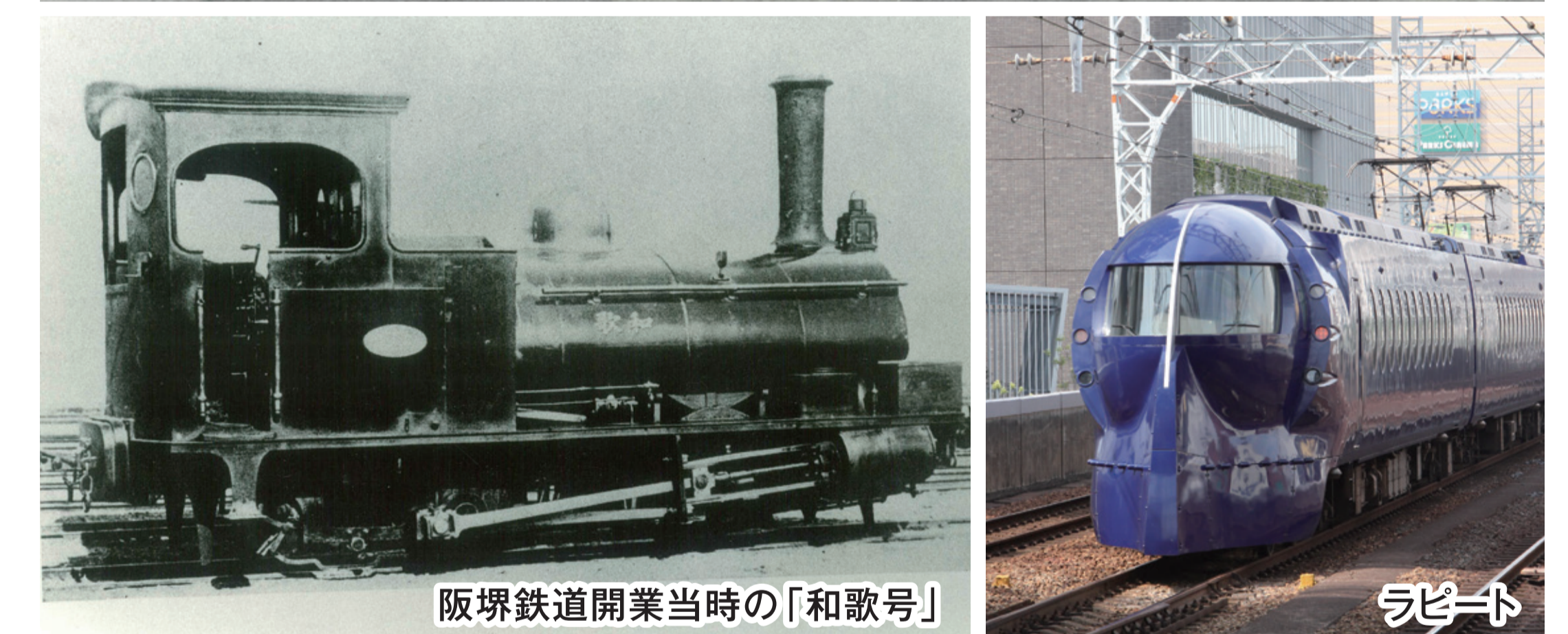
大阪商業講習所(現 大阪市立大学)の創立員の筆頭として携わった。

南海電鉄

南海電気鉄道 提供



初代難波駅



阪堺鉄道開業当時の「和歌号」

ラピート



難波駅

大阪堺間鉄道(現 南海電気鉄道)を設立。

五代友厚の生涯

幕末から明治へと続く激動の時代を生きた五代友厚。商都大阪を築いた五代は、どのような生涯であったのか。

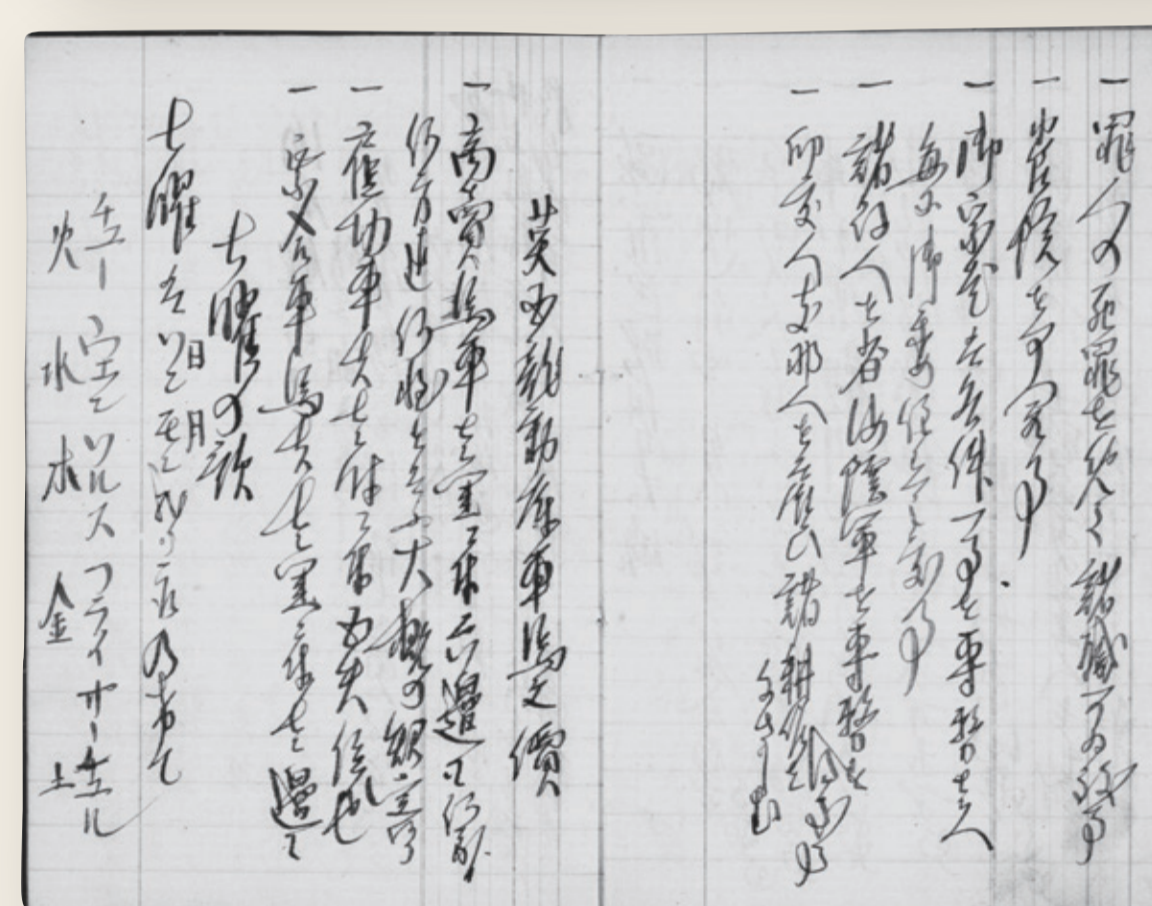
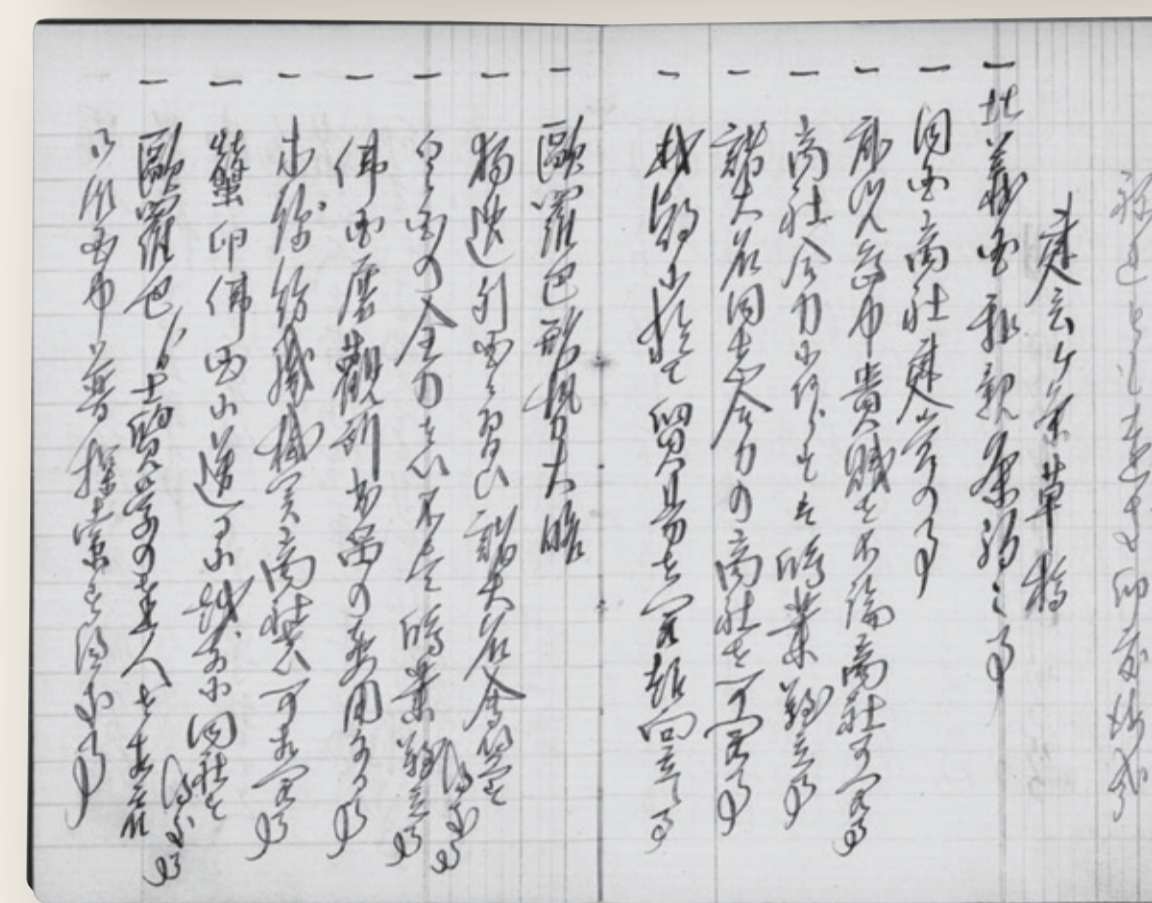
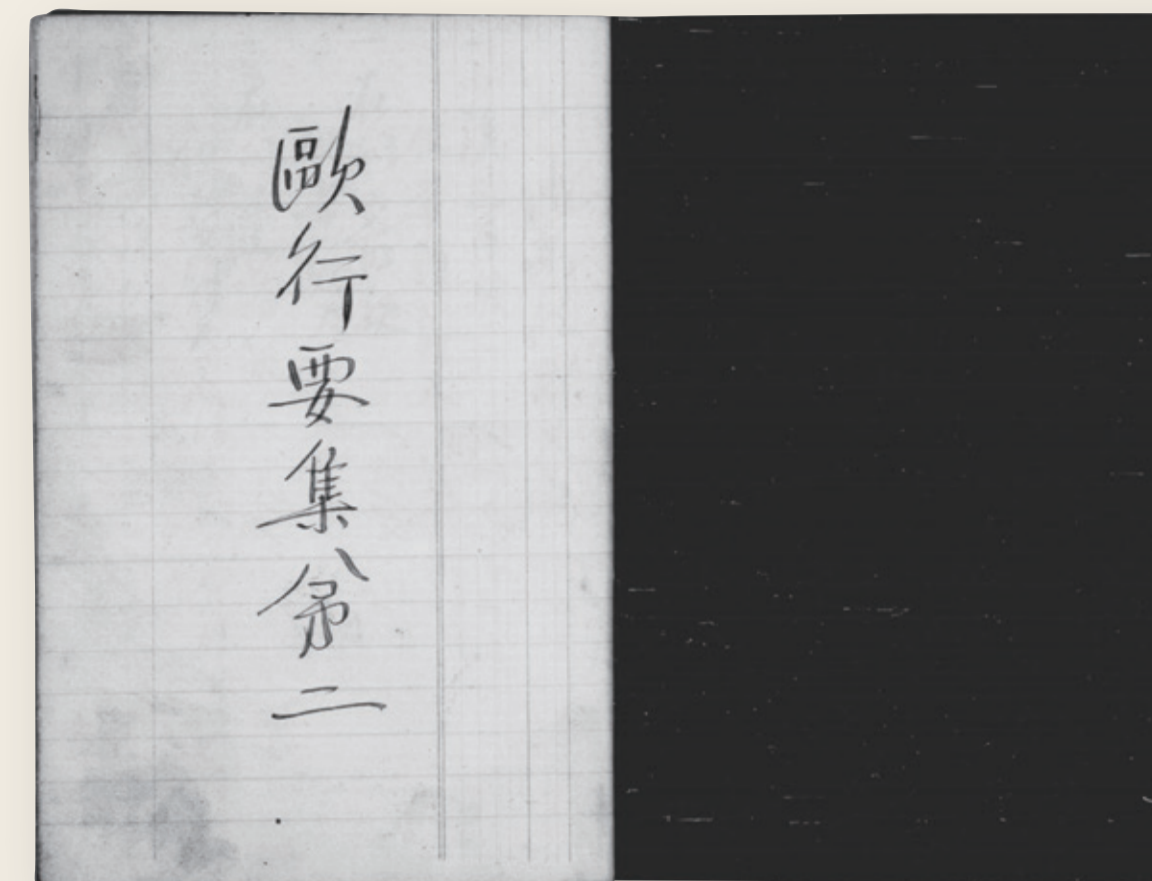
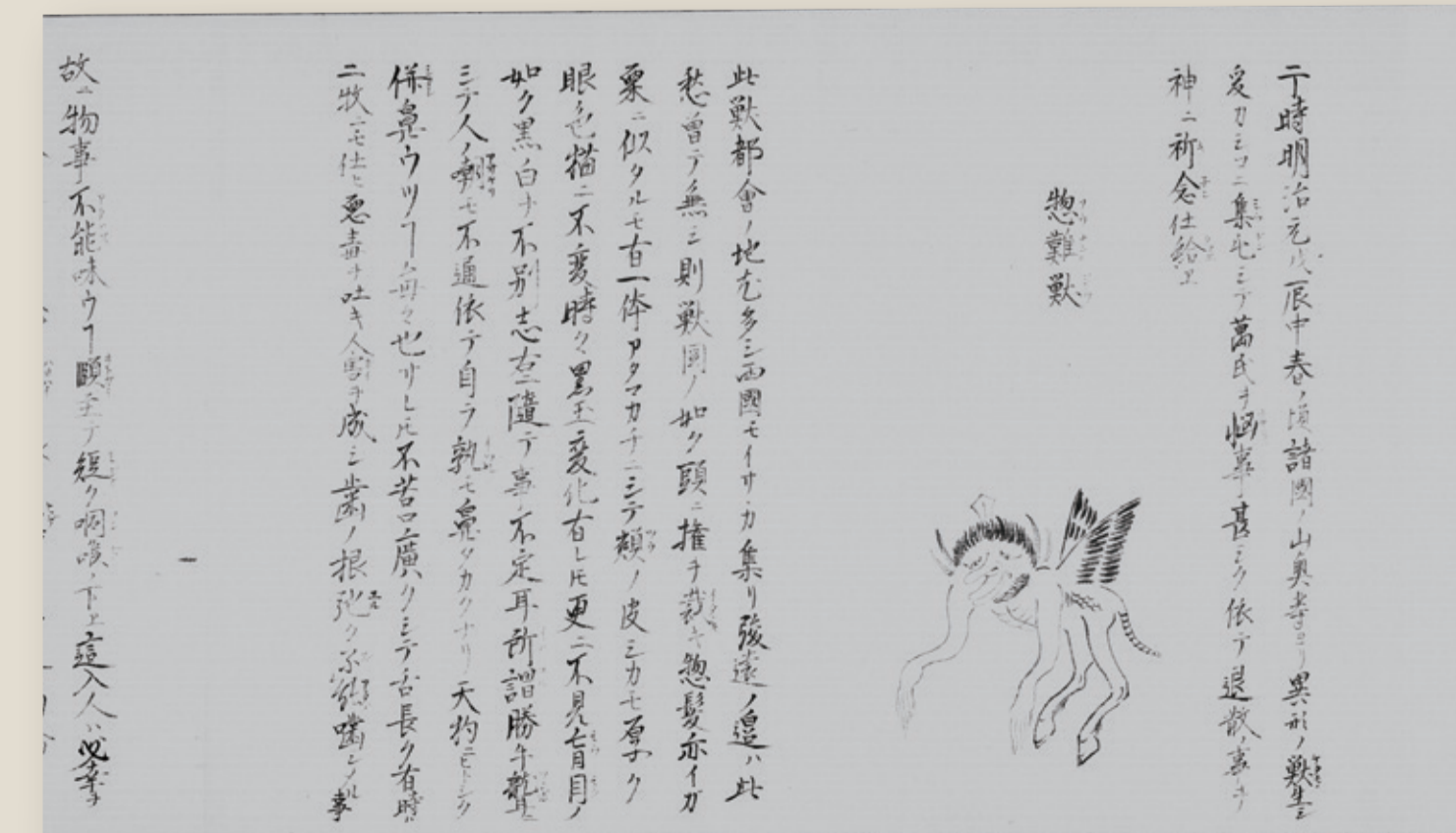
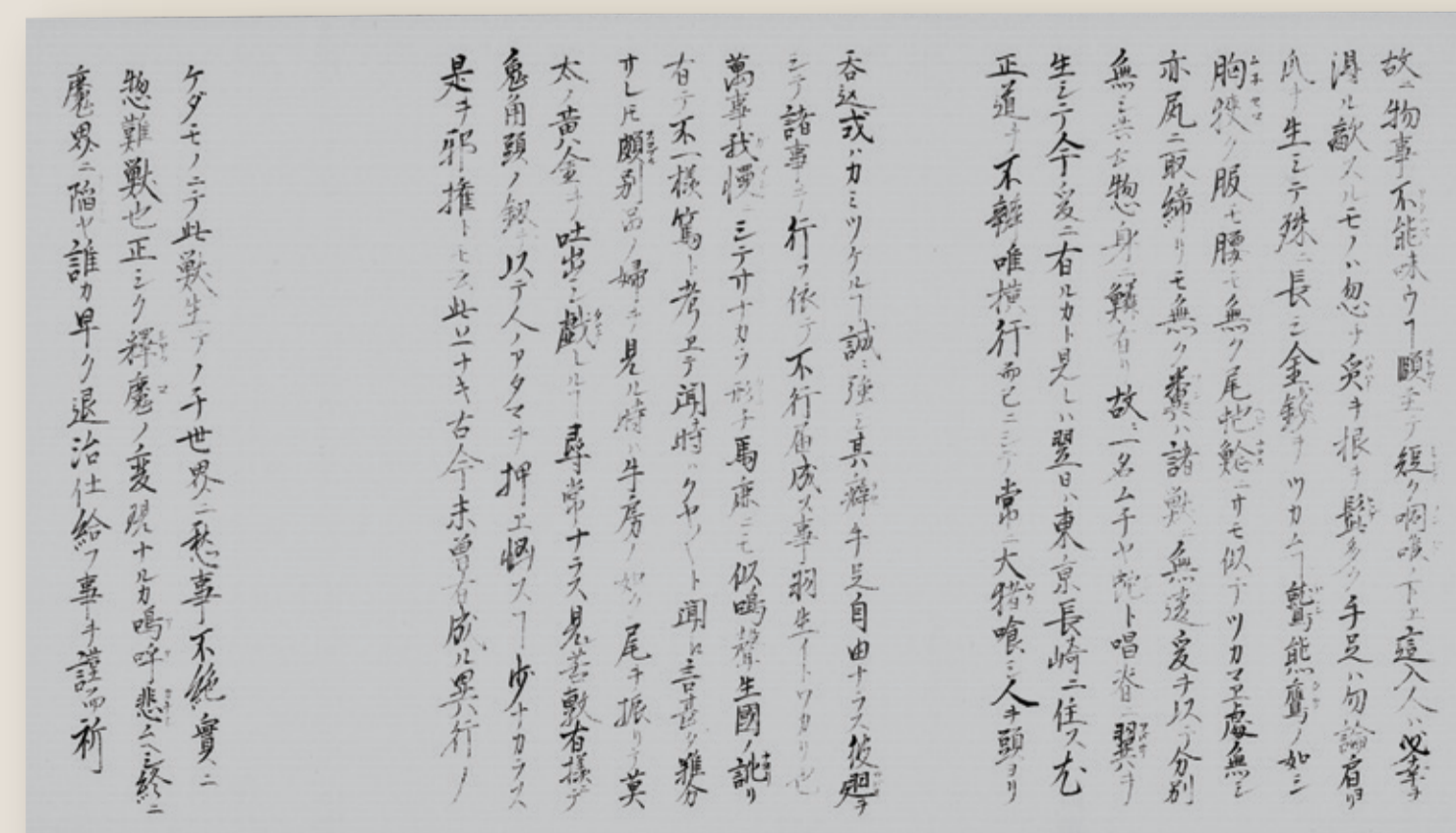
年	元号	年齢	五代友厚の略年譜	当時の時代背景
1836年	天保 6年	0歳	2月12日 薩摩藩士である五代秀堯(ひでたか)の次男として誕生。幼名は徳助。	1835年 岩崎弥太郎(1月)、福沢諭吉(1月)誕生 1836年 坂本龍馬(1月)、篤姫(2月)誕生 1840年 アヘン戦争
1851年	嘉永 4年	15歳	元服を迎え、名を「才助」とする。	
1854年	安政 元年	18歳	藩の郡方書役となる。	1853年 ベリー来航、クリミア戦争
1857年	安政 4年	21歳	長崎海軍伝習所伝習生として派遣され遊学。航海、測量、砲術、蘭学、数学などを学ぶ。	1859年 ダーウィン「種の起源」発行
1862年	文久 2年	26歳	幕府船千歳丸に水夫に扮して乗船し、上海に渡る。グラバーとともに蒸気船の購入交渉などを行う。	1861年 リンカーン第16代大統領就任 桜田門外の変 アメリカ南北戦争
1863年	文久 3年	27歳	薩英戦争で交渉を行う。英艦の捕虜となる。	
1865年	慶応 元年	29歳	薩摩藩の英国への派遣留学生団の副使としてイギリス、ベルギー、オランダ、フランスなどを訪問。	
1867年	慶応 3年	31歳	渡欧中、薩摩藩がパリ万博に出られるよう手配。	1867年 大政奉還、パリ万博
1868年	慶応 4年 明治 元年	32歳	新政府の参与職外国事務局判事を任ぜられ、大阪在勤となる。大阪開港事務に奔走。香港より造幣機械の買い入れを行うなど大阪造幣寮(現 大阪造幣局)の設置に奔走。	1868年 明治維新(明治政府成立)
1869年	明治 2年	33歳	大阪に為替会社(銀行の原型)、通商会社(国内外通商活動振興を目的とした会社)の設立に尽力。会計官権判事として、横浜転勤を命ぜられるが、2ヵ月で退官し、大阪へ戻る。	1869年 米国の大陸横断鉄道完成 スエズ運河開通
1870年	明治 3年	34歳	本木昌造に提言し、大阪活版所を興す。	1870年 JDロックフェラーがスタンダード・オイル・オブ・オハイオを創立
1871年	明治 4年	35歳	造幣寮(現 大阪造幣局)開業。	1872年 東京・横浜間に鉄道開通 「学問のすゝめ」発刊 日本初のガス燈(横浜)
1873年	明治 6年	37歳	鉱山管理会社・弘成館設立(現在の日本銀行大阪支店の場所)。	
1874年	明治 7年	38歳	岩代国伊達郡(現在の福島県)の半田銀山の経営を開始。	
1875年	明治 8年	39歳	仲介役となり、大久保利通・木戸孝允らによる立憲体制の方向を決める大阪会議を開催。	
1876年	明治 9年	40歳	製藍会社・朝陽館設立。堂島米商会所再興に尽力。	1876年 ベルが電話機を発明 1877年 エジソンが蓄音機を発明 西南戦争 東京大学創設
1878年	明治 11年	42歳	大阪株式取引所(現 大阪取引所)設立に尽力。大阪商法会議所(現 大阪商工会議所)設立、初代会頭となる。	1879年 エジソンが電球を発明
1880年	明治 13年	44歳	大阪商業講習所(現 大阪市立大学)設立。	
1881年	明治 14年	45歳	開拓使官有物払い下げ事件に関わり、批判を浴びる。	
1884年	明治 17年	48歳	大阪堺間鉄道(現 南海電気鉄道)設立。	
1885年	明治 18年	49歳	9月25日 東京築地の別邸で死去。	1886年 自由の女神の完成 1889年 大日本帝国憲法発布



↑ **新訂万国全図** 1840(天保10)年 (吉崎敬三氏蔵、鹿児島県歴史資料センター保管)

五代友厚の幼少期に父の秀堯らが模写したもの。父が藩主に献じた他に、もう一枚書齋に掲げたとされる。この世界地図は、後に海外事情に精通することになる五代に、大きな影響を与えたに違いない。
(縦約1メートル、横約2メートル)

五代の残した諷刺画



← 欧行要集 第二 1865(慶応元)年 (大阪商工会議所提供)

五代が滞欧中に記し、当時としては画期的な、世界目線で薩摩藩主に建言された18カ条。その中に「商社」「合力」とあるのは、「会社」「合資」のことで、当時、日本は単独資本(家業)をもって事業を営んでいたが、合資結社の必要を唱えている。

- ①ベルギーとの和親条約を締結すること(当時、ベルギーは大陸側で最も産業革命がすすんでいた。)
- ②ベルギー商社を設立すること
- ③鹿児島での貴賤を問わない商社を設立すること
- ④商社合力でないと大事業はできないこと
- ⑤諸大名が合力する商社を設立すること
- ⑥日本も貿易をするべきであること
- ⑦ヨーロッパ形勢について
- ⑧ドイツに学び諸大名が集まること
- ⑨日本は全力で取り組まないと大事業はできないこと
- ⑩フランスの万博に出品すること
- ⑪木綿紡績商社を開設すること
- ⑫シルクをフランスに輸出する会社を越前に設立すること
- ⑬ヨーロッパから地質学者を呼んで鹿児島島の資源を調査すること
- ⑭罪人の死罪を免じ、職を与えること
- ⑮養院を開設すること
- ⑯家老の専管事項を明確にし、委任すること
- ⑰諸役人を少なくし、海陸軍の専門化に取り組むこと
- ⑱中国、インドから農業労働者を雇用すること

「惣難獣」戯画・文 1868(明治元)年 (大阪商工会議所提供)

五代が残した、時代を諷刺する一戯文。

諸国から、異形の獣が集まり、万人を悩ませている。都会に多く、頭に権をいただき…面の皮厚く…志定まらず…都合よきことのみ聞き…鼻高く…舌長く2枚舌も使う…この獣が生まれてから世界に愁い事絶えず、誰か早く退治してくれることを祈る…。

この獣を惣難獣(そうなんじゅう)として、当時の政府の一部に対する五代の心境を吐露したものとされている。

絵で見る 五代友厚の一生 ①

■ 四世・長谷川貞信氏による絵画で
五代友厚の生涯をたどります。

【協力】大阪商工会議所

大阪企業家ミュージアム

【解説】宮本 又郎

大阪大学名誉教授

大阪企業家ミュージアム館長



(注) 文章中の年齢表記は満年齢で表記をしています。
四世・長谷川貞信氏による絵画(全20作)は、大阪企業家ミュージアムでパネル展示をご覧いただけます。

1848(嘉永元)年 12歳
世界地図を模写して地球儀を作成



薩摩藩主・島津斉彬から命じられた友厚の父は世界地図の模写図を2枚作り、1枚は藩主に献じ、1枚は書斎に掲げた。友厚はこれを参考にして直径二尺余(60センチ)の絹張りの地球儀をつくったという。

1857(安政4)年 21歳
藩より選抜されて長崎に遊学



幕府がオランダの海軍士官を招いて、航海・砲術・測量・数学などを学ぶ長崎海軍伝習所をつくと、薩摩藩主斉彬は十数名の藩士をこれに送り、友厚もそのうちの一人に選ばれた。

友厚は、その間に勝海舟、榎本武揚、本木昌造、税所篤、トーマス・グラバー、松本良順など、のち幕末・明治期において政治家、高級技術者、新知識人として活躍する人々と生涯の知友となった。

長崎留学は友厚にとって外国の文明、知識に初めて接する機会であったが、人的ネットワークを構築する期間ともなったのである。

絵で見る 五代友厚の一生 ②

1862(文久2)年 26歳

身を水夫に扮して上海に密航する



幕府船千歳丸が上海に派遣される際、薩摩藩士は乗船を許可されなかったため、友厚は水夫として乗り込む。友厚はこの旅において、貿易の有利なこと、同地における西洋人の活動ぶりを知る機会を得るなど、後の生き方に大きな影響を受ける体験をした。

同船していた長州の高杉晋作は、「薩摩より五代才助(のちの友厚)という者が水夫と偽り同道していたが、これは薩摩の蒸気船の副将格のもので、どうやら藩主の命を受け、参加していたらしい。次第に親しくなると、その論を聞くと、帰国したうちは、蒸気船の修復の目的で上海にわたり、大いに交易をはかるつもりだ」と記している。

1863(文久3)年 27歳

薩英戦争、友厚捕虜となる



長崎にいた友厚は急ぎ帰国して、松木弘安(寺島宗則)とともに三隻の軍艦を率い、鹿児島湾に待機したが、英艦の急襲にあい捕虜となった。これを契機に砲戦開始。薩摩藩は砲台を破壊され、軍艦が撃沈されるなどの被害を受けたが、英艦隊も旗艦が損傷を受けた。友厚は、敵指揮官に「陸上十万の精鋭は一人として生を欲するものがない。しかも陸戦はそのもつとも得意とするところ」と言い、砲台の備えについても過大に伝えた。

英国軍が上陸をせず横浜に引き揚げた裏には、五代らの巧みな弁舌があった。友厚はその後釈放されたものの、英国側と通じていたのではないかと疑われ、藩外での亡命生活を余儀なくされるにいたった。

1865(慶応元)年 29歳

ヨーロッパ留学



1864(元治元)年薩摩藩への帰参の際、友厚は、攘夷は得策ではなく、開国して先進文明を摂取し、富国強兵をはかることが肝要と主張、このために、英仏両国への留学生派遣を藩府に建言した。これは早くも翌年(慶応元年)実現され、薩摩藩は家老の新納刑部を団長とし、友厚を指導者とする総勢19人の留学生を英国に送った。

この派遣団からは、寺島宗則、森有礼、吉田清成、畠山義成、町田久成、鮫島尚信など多くの明治の指導者が輩出された。友厚自身にとっても、成長途上にあつたヨーロッパ資本主義諸国への約11カ月に及ぶ旅は、見るもの聞くものすべて驚くばかりであつたに違いない。実業家五代友厚の資質はこの渡欧で大きく育まれたのである。

1867(慶応3)年 31歳

日本のパリ万国博初参加に尽力



留学中、友厚らはパリ万国博に出品する運動をおこした。日本からは幕府、薩摩藩、佐賀藩の三者が出品しようとしたので、主催者は一本化を進めたが、友厚は徳川と島津は天皇の下に同等だとして、これを拒否、薩摩藩は「薩摩琉球国太守政府」として独自の展示を行うことを主張した。

薩摩藩は岩下方平を団長とする使節団を派遣、薩摩焼、漆器、焼酎、泡盛、砂糖、鉾石などの展示を行った。

幕府の方も檜造りの茶店を設け、あてやかな「ニッポン娘」(一説に江戸柳橋の芸者)のおもてなしを披露、好評を博したという。

絵で見る 五代友厚の一生 ③

1868(明治元)年 32歳 大阪川口運上所



1868(慶応4)年2月、友厚は外国事務局判事となり、大阪在勤となった。課せられた仕事は大阪川口運上所(税関)における一切の事務を管轄することで、大阪開港規則を定め、船舶停泊場の建設など港湾整備に腕をふるった。密輸や不正外国商人の取締にはとくに厳格であった。

1869(明治2)年には、大阪港の整備を企画。友厚は、赴任以来、鋭意大阪の外国貿易発展策を講じ、まず外国船の停泊に便利なように、毎日3,000人の人夫を使役して百間(180m)四方、深さ2丈5尺(8.25m)の船舶碇泊場を造ろうとした。

1878(明治11)年 42歳 大阪株式取引所を設立



1878(明治11)年、株式取引所条例が公布されると、友厚は鴻池善右衛門、三井元之助、住友吉左衛門、山口吉郎兵衛、井口新三郎とともに、大阪株式取引所(現 大阪取引所)の設立を発起した。

6月17日開業が免許され、8月15日、江戸時代に金銀相場会所が置かれていた北浜2丁目11番地において盛大な開業式が挙行された。資本金20万円、株主135人で、大阪の有力実業家のほか、渋沢栄一や益田孝など東京の実業家も参加した。

同年には東京株式取引所が設立され、ここに東西呼応して証券市場が成立したのである。

1878(明治11)年 42歳 大阪商法会議所を創立し、推されて会頭となる



維新後大阪では旧来の商慣習が乱れ、経済活動沈滞の一つの原因となっていた。この状況を憂いた友厚は、确实なる仲間組合を設置するのが急務と考え、中野悟一・藤田伝三郎・広瀬宰平らと協議して、明治11年大阪商法会議所(現 大阪商工会議所)を設立、その初代会頭に選ばれた。

大阪商法会議所は行政当局に種々の建議を行ったり、あるいは諮問に答えて、業者の利益増進につとめた。ことに大阪の商慣習の正常化のため、株仲間の復活、商業手形の流通促進など旧慣習を重んじる建議をなしていることは、友厚が経済の実情を重んじるリアリストであったことを物語っている。

1885(明治18)年 49歳 生涯を閉じる



五代友厚は東京築地の別邸で長逝した。葬儀は、大阪で行われた。

会葬者は4,300人余人、葬列は13町余に及んだという。幕末・維新の激動のなかで大きな打撃を被り、麻痺状態に陥っていた大阪経済の再生のために友厚は先頭にたって働き、新時代の実業家が進むべき方向を指し示した。

友厚自身は、死後100万円の借財を残したほどに、財閥を築くような経済的成功者とは成りえなかった。しかし、友厚が支払ったコストの上に、近代大阪経済は発展の基礎を築いたのである。その恩恵を私たちはいつまでも忘却すべきではないであろう。

五代友厚ゆかりの地

■ 生誕の地 鹿児島

五代友厚のルーツは、薩摩(現在の鹿児島周辺)にあります。



桜島

五代友厚が活躍した当時は、完全な島(1914(大正3)年の噴火でつながる)であったが、現在でも当時と変わらない美しい姿が市内から一望できる。



鶴丸城(鹿児島城)の城壁

1601(慶長6)年頃、島津忠恒(家久)によって築かれた薩摩藩の本拠地。天守閣を持たない屋形の形状が、鶴が羽を広げたようであったことにより、別名である「鶴丸城」と呼ばれている。

五代友厚は、父の死後である1854(安政元)年、藩に仕えることになり、郡方書役(書記官の補助)を務める。

1873(明治6)年に焼失し、城壁だけが残っている。



五代友厚誕生の地

鶴丸城の北側、城山の麓にある五代友厚誕生の地。1836(天保6)年、薩摩藩の儒官で『三国名勝図会』の編纂者として知られる五代秀堯の次男として生まれた。2016年に整備された石碑を正面に見ると、その先には大阪がある。



旧鹿児島紡績所技師館(異人館)

日本最初の機械紡績所に招聘されたイギリス人技師7名の宿舎として、1867(慶応3)年に建築された(世界文化遺産)。五代友厚は、留学生らとともに欧州へ渡り、機械の買い付けや技師の派遣交渉を行った。この機械紡績所は、日本の産業革命の起点とも言われている。

五代友厚をめぐる著名人たち

■ 幅広い人脈からもわかる五代友厚の活躍

長崎でのつながり

勝海舟 (1823-1899)



幕臣として入所した長崎海軍伝習所にて五代と出会う。

榎本武揚 (1836-1908)



幕臣として入所した長崎海軍伝習所にて五代と出会う。

トーマス・グラバー (1838-1911)

五代の長崎遊学中に会い、親交を深めた。

五代友厚 (1836-1885)



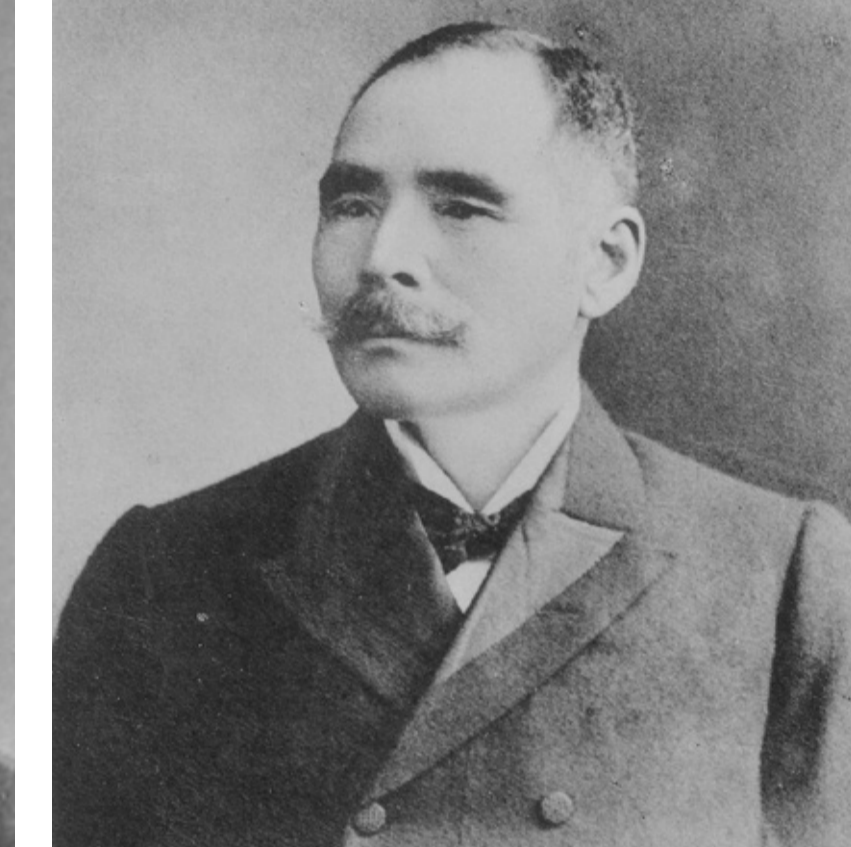
大阪商人の同志

藤田伝三郎 (1841-1912)



五代の後を継いで、設立に尽力した大阪商法会議所(現 大阪商工会議所)の2代目会頭を務めたほか、五代とともに大阪堺間鉄道(現 南海電気鉄道)などを興した。

松本重太郎 (1844-1913)



藤田が興した大阪貿易(現 東洋紡績)や山陽鉄道、大阪麦酒(現 アサヒビール)など様々な企業の経営に関与した。

廣岡信五郎 (1841-1904)

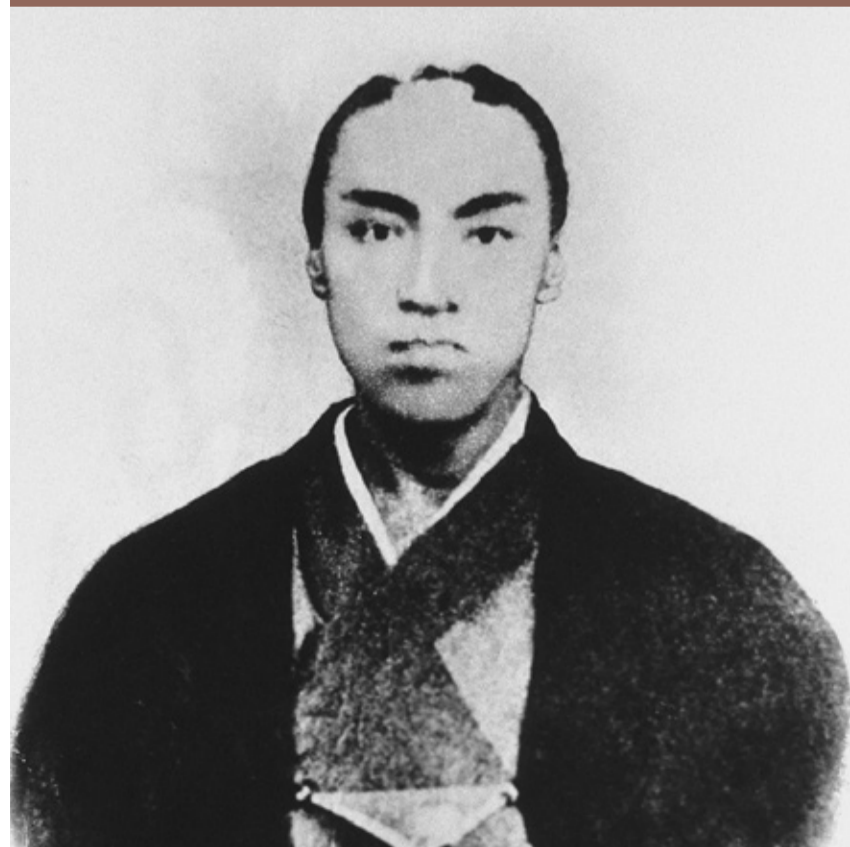
(廣岡浅子の夫。)大阪株式取引所(現 大阪取引所)の肝煎(取締役)も務めた。

広瀬宰平 (1828-1914)

住友家の総理人(初代総理事)。大阪株式取引所(現 大阪取引所)や大阪商法会議所(現 大阪商工会議所)などの設立に尽力した。

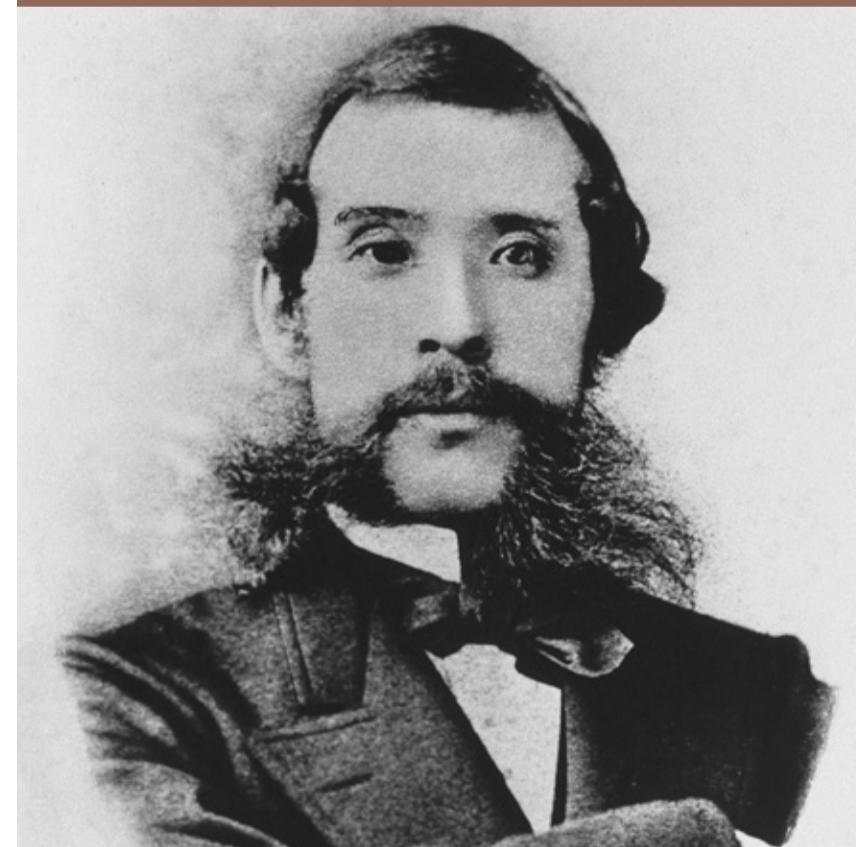
薩摩の盟友

小松帯刀 (1835-1870)



五代と同一年で、留学生の英派遣に尽力するなど五代を支えた。

大久保利通 (1830-1878)



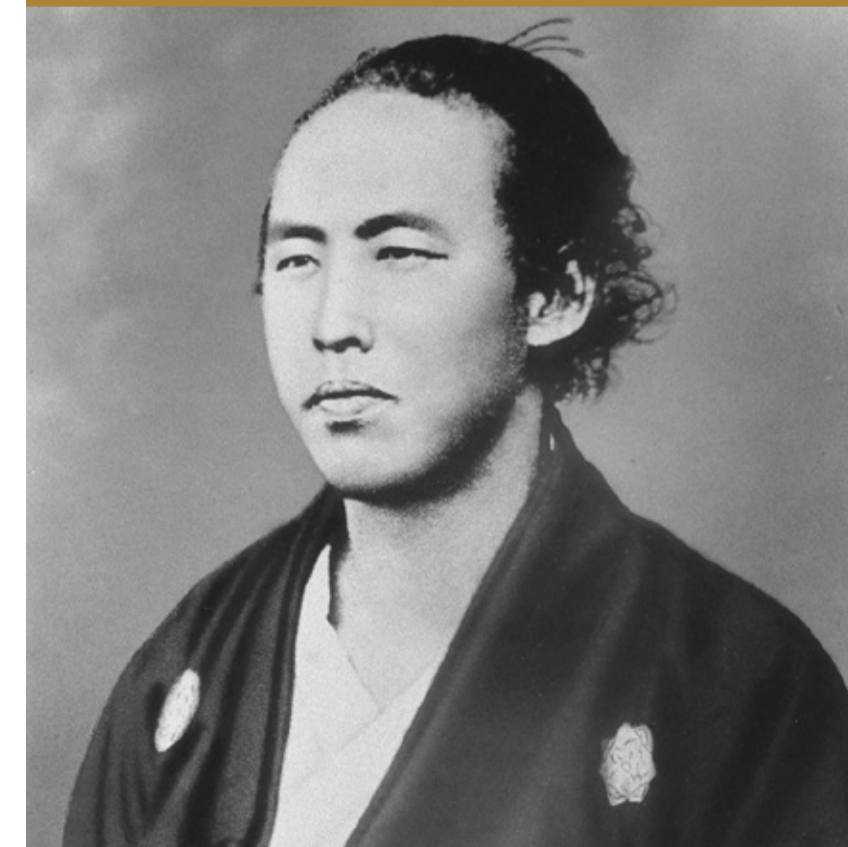
明治維新の指導者であり、五代に対して深い信頼をおいた。

寺島宗則 (1832-1893)

薩英戦争で五代とともにイギリス軍の捕虜となった。

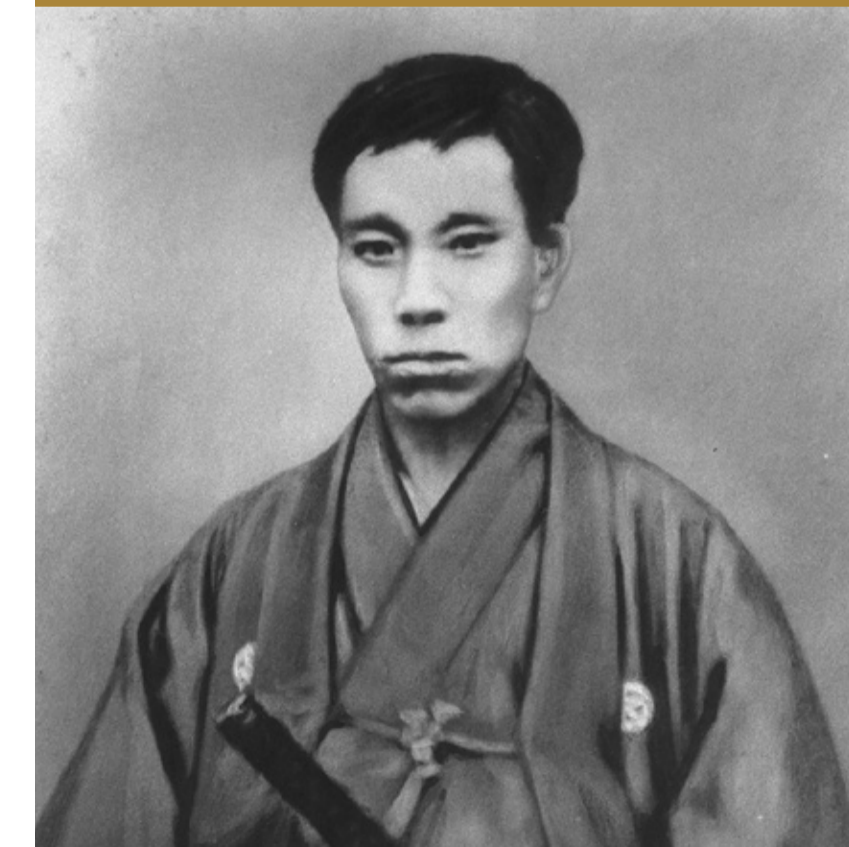
明治維新の立役者たちとも交流

坂本竜馬 (1835-1867)



坂本率いる海援隊と紀州藩が争った「いろは丸沈没事件」で、五代は両者の仲介を務めた。

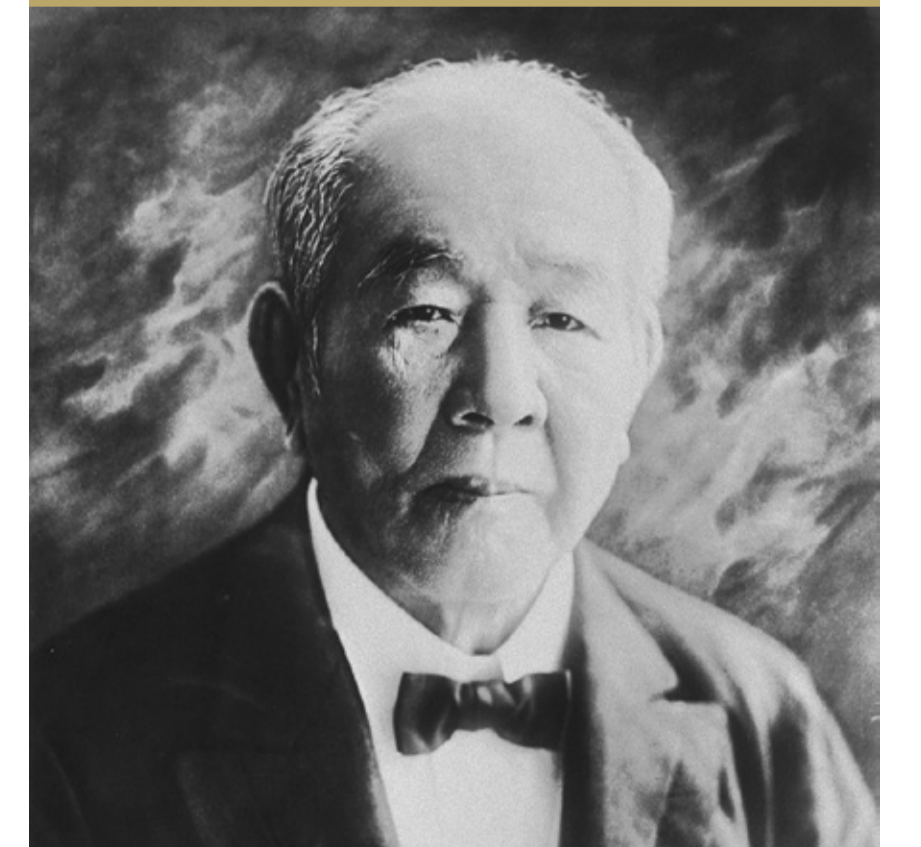
高杉晋作 (1839-1867)



長州藩の代表として上海に赴いた際、船上で五代と出会う。

西の五代、東の渋沢

渋沢栄一 (1840-1931)



近代日本を飛躍させた事業家として五代と並び称される。東京株式取引所(現 東京証券取引所)設立に尽力。

大阪株式取引所の設立①

■大阪取引所の歴史

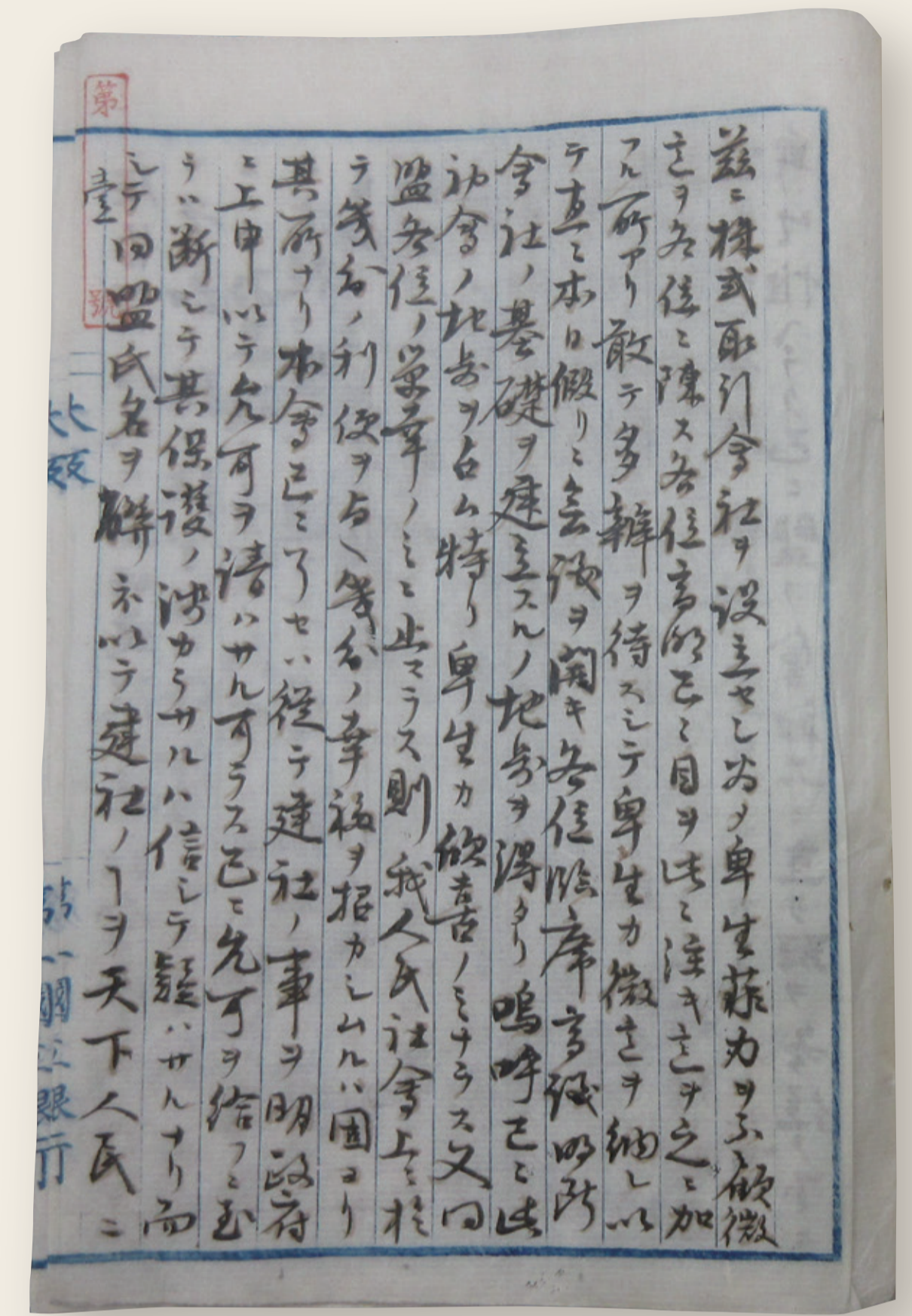
五代友厚らが発起人となりその設立に尽力した大阪株式取引所。その歴史は、大阪取引所として現在も受け継がれています。

1878(明治11)年5月、政府が発令した「株式取引所条例」をうけ、五代友厚が発起人となり、大阪株式取引所設立免許(株式会社組織の大阪株式取引所(大株)として設立の免許)を受けました。

設立趣意書

1878(明治11)年4月

株式取引所条例の制定・布告に先立って、五代友厚を中心に取引所設立に向けて協議した趣意書です。取引所を設立するにあたり、心がけることが熱く語られています。



(原文)

ここに株式取引会社を設立せんため、卑生非力を顧みず、微意(ささやかな志)を各位に陳す。各位高明すでに目をここに注ぎ、意をこれに加うる所あり。敢えて多弁を待たずして、卑生が微意を納れ、もって直ちに本日仮に会議を開き、各位臨席、高議明断、会社の基礎を建立するの地歩を得たり。嗚呼、すでにこの初会の地歩を占む、特り卑生が欣喜のみならず、また同盟各位の榮幸のみにとどまらず。すなわち我が人民社会上において幾分の利便を与え幾分の幸福を招かしむるは固よりその所なり。本会すでに了せば、従って建社の事を明(治)政府に上申もって許可を請わざるべからず。すでに許可を給うに及ば断じてその保護の浅からざるは信じて疑わざるなり。しかして同盟氏名を聯ね、もって建社の事を天下人民に広告せば、人民もまたこの建設はその社会上に利便あるを覚知し、殊にかの金禄公債証書のごとき無数の金額にして将来、広く売買の行わるるに至らば、本社の事務もまた従て盛大に進まん事、必せり。然るといへども業の盛否は自他の信義厚薄いかにあり、故に事を執るや誠規を立るや堅し。しかして人民をして一目信を置かしむるに非ずんば不可なり。

古人曰く、成立の難きは、天に昇るが如く、覆墜の易きは、毛を癩くが如しと。若しそれ放過・忽諾ひとたび信用を失する時は、只に会社の衰枯のみならず。すなわち自己・私家の毀敗に関すること最大なりとする。故にその榮枯と毀誉とは、同盟各位の自らこれを招き、これを邀ものと確信し、堅忍憤勵もって全終の機軸を堅牢ならざらしめざるべからず。卑生惟えらくすでに盟を會社(上)に立て、班を各位の下に辱(じよく)す。会社上の義務はもとより奮勵せざるべからざるも、それ平日社外の交誼においても互いに親睦を敦くし、いわゆる輔車相依の友情を表せざるば有るべからずと。ただ望むらくは同盟各位またこの事をもって心とし、榮譽ともに取め、もって永く社名を汚さざらんことを。

卑生本会を開くにあたり、歡喜禁ずるあたわず。すなわち鳴謝(感謝)の意を致し、併て本日の立会を頌す(祝う)。

明治11年4月13日 五代友厚

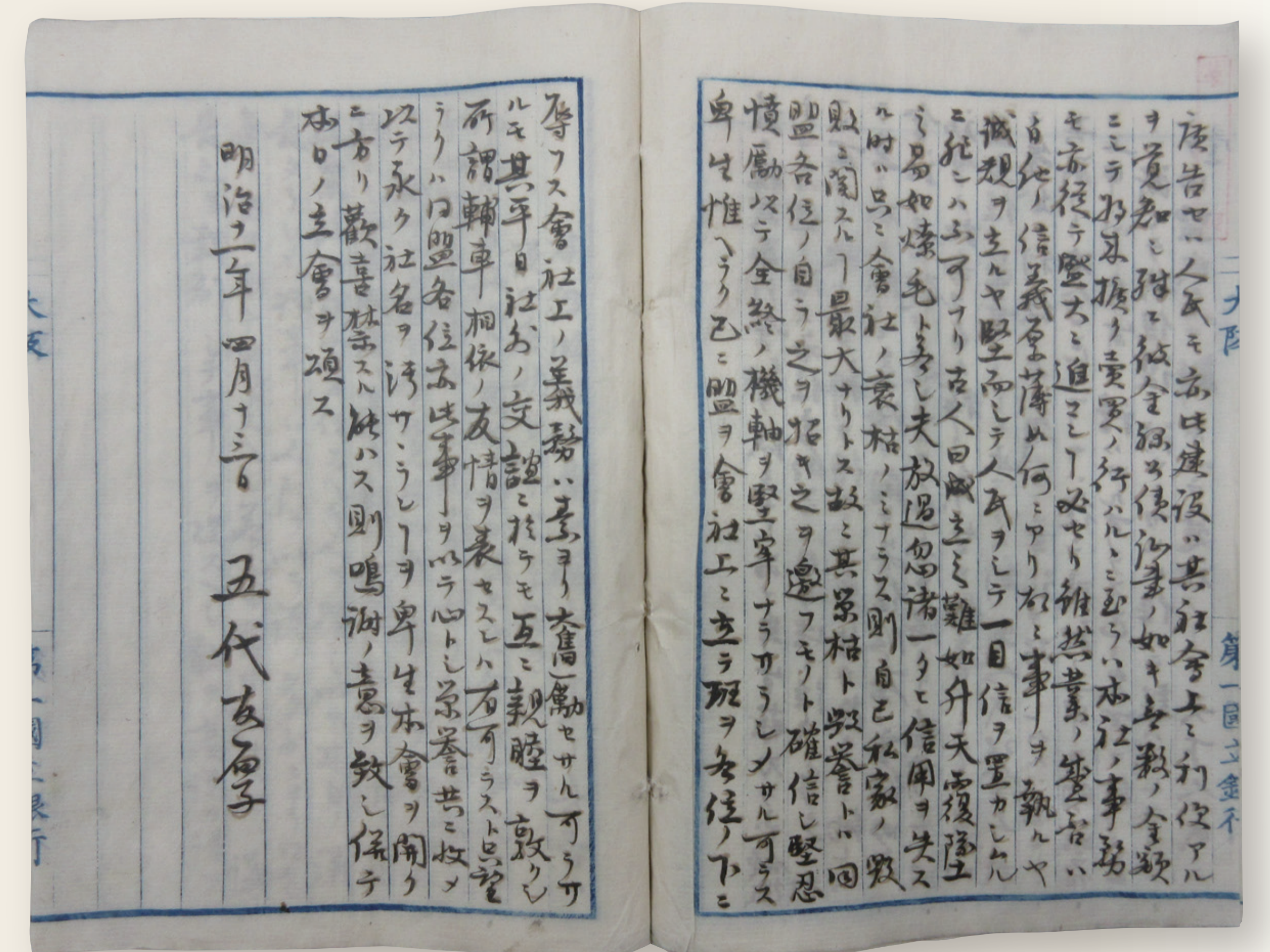
(下線部抄訳)

業務盛隆の成否は、人々の信用信頼が厚いことにかかっています。したがって、事を成すにあたっては誠を尽くすことこそ堅実であり、人々の信頼を勝ち取ることが肝要であります。

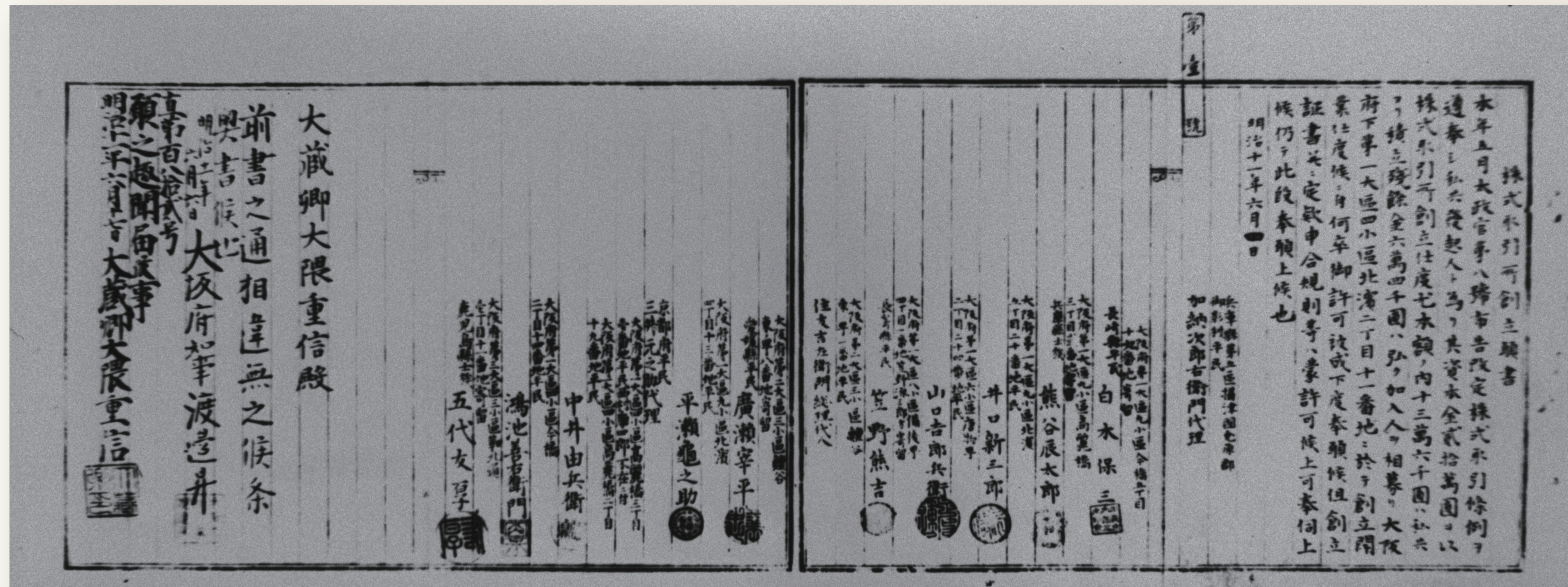
故人の例えもありますように、「物事の成功は天に昇るように難しいが、失墜は毛を焼くようにたやすいことである」と。物事をおろそかにしてそのままにしておけば、たちまちにしてすべての信用が失われる。そのような場合は、会社の衰退だけではなく、私たち発起人の信用棄損につながることを肝に銘じておくべきであります。

したがって、榮えるか衰退するか、また名誉とその毀損は、私たち発起人が自ら招き、迎えるものであることを自覚し、我慢強く任務に励み、着実にすべてにわたって要点を固めることが重要であります。

私が思いますことは、「盟を會社に立て班を各位の下に辱(じよく)す」ということであります。すなわち、会社における誓約や義務は当然ながら果たさなければならないが、社外での親交においてもお互いに親睦を深め、助け合いの友情を絶やさないと肝要であります。私が望むことは、同盟各位(発起人一同)がこのことを心し、社名を汚さないことであります。



大阪株式取引所の設立②



創立願書

1878(明治11)年6月
有力商人からも出資がされ、設立を政府に願ひ出ます。
五代の出資した額は、うち1万5,000円。現代の金額に換算すると、およそ1億円程度を出資しています。

開業免状

1878(明治11)年7月
大藏卿 大隈重信の名で出された大阪株式取引所開業免状

(原文)

株式取引所創立願書

本年五月太政官第八号布告改定株式取引所條例を遵奉し、私共發起人となり、其資本金20万円をもって株式取引所創立仕度、もつとも本額の内13万6千円は私どもより積立て、残余金6万4千円は弘(広)く加入人を相募り、大阪府下第一大区四小区北浜二丁目十一番地において創立開業仕度候につき、何卒御許可被成下度奉願候。

但し創立証書并定款申合規則等は許可を蒙り候の上、可奉向上候。仍此段、奉願上候也。

明治十一年六月四日

(下線部抄訳)

私たちが發起人となり、資本金20万円をもって株式取引所を創立したいと考えております。資本金20万円のうち13万6千円は發起人が出資し、残額6万4千円は広く加入者を募って、大阪府下北浜2丁目11番地において開業したいので、なにとぞご許可下されたくお願い申し上げます。



1898(明治31)年築

1920(大正9)年頃 立会場

大阪取引所 五代友厚像

大阪での数々の功績を称えるように、大阪市内には、大阪取引所の像を含め5体の銅像があります。
また、生誕の地である鹿児島にも2体あり、薩摩藩で活躍した五代友厚の功績が伺えます。

1 大阪取引所



2 大阪商工会議所



鹿児島

KAGOSHIMA

6 鹿児島県鹿児島市泉町 泉公園



3 大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校



4 光世証券 光世証券 提供



5 大阪市立大学 大阪市立大学 提供



7 「若き薩摩の群像」JR鹿児島中央駅



OSAKA

大阪取引所 五代友厚像

2004年12月、旧市場館の前には、彫刻家中村晋也氏が制作された五代友厚の銅像が建立され、多くの人が訪れる北浜のランドマークとなっています。

設計図からも分かるように、台座は4.0m、銅像は3.6mの高さがあります。

台座の縁石0.2mも含めると地上から頭上まで7.8mとなり、この巨大な銅像を固定するために地下には9.5mにわたる杭が埋め込まれています。

また、台座は石を貼り合わせて造ると風雨により腐食が進むため、一枚岩を使用しています。

このような、一枚岩の花崗石(桜御影石)は大変めずらしく、日本国内では入手することが困難なため、中国から輸入し、大阪港からトレーラーでこの場所まで運ばれました。

The diagram shows the front and back views of the monument. The front view (正面図) shows a bronze bust (銅像) on a stone pedestal (台座). The bust is 3.6m high, and the pedestal is 4.0m high. The total height from the ground to the top of the bust is 7.8m. The pedestal is made of granite (花崗石G635無垢石). The bust is made of bronze (銅像:ブロンズ製). The pedestal has a base of 2.3m x 2.3m and a top of 1.38m x 1.38m. The back view (背面図) shows the same monument from the opposite side, with a commemorative plaque (記念碑文章) on the pedestal. The drawings include dimensions and material specifications.

The diagram shows a detailed cross-section (断面図) and foundation plan (基礎部平面図) of the monument. The cross-section shows the bronze bust (銅像) on a stone pedestal (台座) supported by a concrete base (基礎). The base is 4.0m high and 2.0m wide. The foundation consists of a concrete slab (基礎コンクリートFC210 S=18) and a pile foundation (鋼像用杭) with a diameter of 300mm and a length of 9.5m. The foundation is surrounded by compacted soil (埋め戻し土) and is supported by three piles (杭3本). The drawing also shows the steel reinforcement (H鋼筋) and the concrete base (基礎2000x2000). The cross-section is labeled as '街園部 A-A' 断面図 S=1/100'.

彫刻家 中村晋也氏のご紹介

2004年に大阪取引所(当時 大阪証券取引所)前に建立された五代友厚像の作者である中村晋也氏は、日本を代表する彫刻家であり、2007年には文化勲章を受章しております。

年号	元号	主な活動
1926年	大正15年	三重県に生まれる
1949年	昭和24年	鹿児島大学講師に就任
1966~67年 1969~70年	昭和41年~42年 昭和44年~45年	フランスに留学し、アペル・フェノサに師事(留学2回)
1979年	昭和54年	鹿児島市甲突河畔に「大久保利通公」像を建立
1982年	昭和57年	「若き薩摩の群像」を鹿児島中央駅広場に建立
1984年	昭和59年	中国湖南省長沙市に日中友好和平の7体よりなる群像を建立 第16回日展「焦躁の旅路」を出展し文部大臣賞を受賞
1988年	昭和63年	第19回日展出品作「朝の祈り」により日本芸術院賞を受賞
1989年	平成元年	日本芸術院会員に任命される
1990年	平成2年	社団法人日展常務理事に就任
1992年	平成4年	鹿児島大学名誉教授となる
1993年	平成5年	大阪市御堂筋彫刻ストリートに「姉妹」を建立
1994年	平成6年	社団法人日本彫刻会理事長に就任
1996年	平成8年	パリ・三越エトワールにて個展 財団法人中村晋也美術館を設立 ヴァチカン美術館に「MiserereⅢ」が収蔵される

年号	元号	主な活動
1999年	平成11年	勲三等旭日中綬賞を受章 崇城大学副学長に就任 愛国学園大学に大レリーフ「愛の国伝説」を設置
2001年	平成13年	神戸市三宮花時計前駅に「MiserereI」を設置
2002年	平成14年	文化功労者として顕彰される
2003年	平成15年	薬師寺大講堂に「釈迦十大弟子」像を奉納
2004年	平成16年	大阪証券取引所(現 大阪取引所)に「五代友厚公」像を建立
2007年	平成19年	大阪城豊国神社に「豊臣秀吉公」像を建立 文化勲章を受章
2009年	平成21年	パリのユネスコ本部に「蝶の人」が収蔵される
2010年	平成22年	奈良県喜光寺に「仁王」像を奉納 「天璋院篤姫」像を鹿児島県歴史資料センター黎明館に建立
2011年	平成23年	大阪市玉造稻荷神社に「豊臣秀頼公」像を建立
2014年	平成26年	鹿児島市より名誉市民の称号を授与される
2015年	平成27年	「釈迦八相像(果相)」を薬師寺(西塔)に奉納

中村晋也美術館を訪ねて ～彫刻家中村晋也先生と大阪取引所山道社長の対談～

同席：野間口 泉(中村晋也美術館 学芸員) 田邊 一郎(大阪取引所(制作当時の事務局責任者))



山道: 五代友厚像制作の依頼を受けた当時の思い出などをお聞かせいただけませんか。

中村: まず思い出するのは、こんなに交通量の多いところに建てるのかということちょっと驚きました。

山道: 堺筋と土佐堀通りの交差点ですからね。

中村: 交差点だけれども、一種の広場だと考えて、この広場にはどの大きさと合うのか、当初は見当もつかなくて、でもまあ、なるようになるだろうと。

山道: 先ほど、展示されている五代友厚像の実物大の原型を身近で見せていただきましたが、大阪取引所の前の像は4メートルの台座の上に載っているの、こんなに近くで見ると、大きいんですね。

中村: いわゆる大きな交差点で、道幅も広く、少々の像の大きさではおっつかない。また私の五代像の印象ですが、日本一の大阪にしてくれた人という印象があって、像の大きさも含め、自分の好きなようにやらせて頂いた。

設置される空間と、渋沢に並び称される五代の功績を考えて、同じ高さ

山道: 像の大きさは、設置場所の広さとの釣り合いもありますよね。

中村: そうですね。あの大きさならケンカになりません。50センチでも大きくなると、目障りというか、あの場所を占領しているかのように。また像は緑地帯に置かれていますが、それも上手く利用して、近くを歩いている方にも見上げていただいて、大阪の父というか大阪を作った親父というか、そんなイメージを表現できたという思いで作りました。

田邊: 制作当時、西の五代、東の渋沢で、どちらも並び評されるべきだということで高さを揃えた話を聞きました。

中村: なるだけ揃えました。どちらが高くてあまいい感じはしないですからね。

山道: 渋沢の像は公園にあり、五代の像は背景に取引所という建物があるせいか、五代の方が大きく見えますね。

中村: なるだけ揃えようという気はありました。ただ、制作の仕方でも大きく見えるということもあります。楽しい仕事をさせていただきました。

山道: 先生に作っていただいた五代像ですが、NHKの朝の連続テレビ小説「あさが来た」で五代が準主役で登場し、また俳優のティーン・フジオカ氏が演じたこともあって、大ブレイクしました。今では、観光スポットになり、毎日のように、観光客がカメラで撮っています。

中村: 今おっしゃった写真を撮るとなると、もっと低くてもいいのではないかとということになるのですが、そうすると、五代さんという人が、鹿児島から出て行って、あの大阪というところで自分の一生を貫き通したというのが、低くても、どうも感じられなくて。商工の神様のような人でもあり、まあ、この高さでもいいだろうと考え、あの高さについては誰にも、相談なく決めてしまったんですけれども。

コートになびく風は、明治維新の風

田邊: お作り頂くときに、「五代のmantが跳ねているところにも思いが入っている」と聞きました。

中村: いわゆる明治維新の風ですね。その風を受け活躍したということを表現しています。

山道: 先生のお作りになった大久保利通像も同じようにmantが風に揺れています。

中村: あのとときは、日本中がこのように風を受けていた。すごい風が吹いていたということです。現代人の像はこういう格好では制作しません。あの時代はですね、我こそはというのが一杯いて、それが日本を牛耳ったわけで、だからそういう格好でいいのではないのでしょうか。

山道: 明治を作った男たちというか、それに関して興味をお持ちなのではないですか。

中村: 今は考えられないような、「俺が日本の面倒をみる」というような、みんながそういうレベルにあったのではないのでしょうか。

山道: みんな進取の気性で、気概を持ってやっていたという時代です。いいですね。

素晴らしい場所

山道: ところで、今日は野間口学芸員から多くの作品の説明を受けましたが、今までどれ位の作品を作られたのでしょうか。その中で、五代像について他とは違う思い出のようなものはあるでしょうか。

中村: 作品の数は、1,000体は超えるでしょうか。随分仕事をさせていただきました。その中で印象に残るというか、自分自身も関心を持ち続けている像というものはあります。五代像については、素晴らしい場所を選定していただきました。取引所の前ですが、仕事をするエキスをみないものがある場所、その前を道路が通っていますが、(道までの間が)洲のようになっているという、(交差点でありながら緑地帯があることから)自動車とはあまり関係なくて、本当に素晴らしい場所でした。

山道: 夜に1時に設置するというのは、大変でしたね。クレーンで吊ったんですね。

田邊: 設置の際、銅像は宙を舞っていました。

中村: こちらも設置を監督しないといけないのですが、邪魔だから交差点の反対側から、あ、あ、あ、こうだと、向こうの報告を聞きながらやりました。今考えても、よくやったね。うまくいったね。

文部省の辞令で、卒業後、鹿児島に

山道: 先生は三重県に生まれ、東京高等師範学校を出て、ずっと鹿児島にお住まいですね。

中村: 私らの時代は、文部省が卒業する際に赴任先を割り当てて、新制大学の最初だったのですが、お前はどの大学と決められ、そこに赴任しないといけなかった。それで、私も3年間は鹿児島で辛抱しよう、それからもう70年になります。

山道: 鹿児島大学、七高が中心になってきた大学ですね。

中村: 新制大学、鹿児島大学ができた最初の年(1949(昭和24)年)の教官になります。おもしろいもので、「この学生、教え子が卒業するまではここに居よう」と思うわけです。

山道: すると4年ですね。また新入生も入ってきますよね。

中村: そう。そうするとずるずると。一生、鹿児島です。だけど他の地にいる私の同級生に聞いても、みんな同じですね。

山道: 住めば都というのがありますね。

中村: 最初は、辛抱、辛抱と思っていましたが、教え子がもうちょっと育つまでとか、変なところで親心もできて、4年間大学で彫刻

やったり、だれが彫刻家になれますか、もうちょっと、もうちょっとと言っている間に、こちらもだんだん歳を取って、それで70年。でも、そんなものかなと思います。この会社で5年、別の会社でまた5年、そういう人は当てにならないでしょう。それと同じことですね。卒業生、教え子が増えていくわけですから、いつの間にか、地盤が出来ていくわけです。教育は、そういうものだと思います。

作品は自分の分身

山道: ところで、彫刻の制作を依頼されるとは、テーマが何かあるのでしょうか、ご自分からお作りになる時、テーマはどのようにお考えになるのでしょうか。

中村: 依頼品は別ですが、例えば展示会とかですと、なんとなく、その時期に、こういうのを制作しようかな...ではなく、すべきだろうな、すべきだと考えます。

山道: やらなければいけない。

中村: そう、そういう風になっていく。それは、例えばこういう風に日本の彫刻は進まないといけないう観念のときもあります。それから、テーマとしてこういうのを発表したいというときもあります。まあ、いろんな意味があって、展覧会だとそういう風に、大きく分けて考えることがあります。また、制作して発表する作品は、やはり自分の分身ですから、自分の言葉で話すとすると、言葉を辞めて、形でお見せして、ご理解いただくという、そういうことになるかと思えます。

山道: 先ほど見せていただいた、作品「ミゼレーレ(★1)」は18体ありますが、中性的かと思えば、男性的なものから、女性的なものまであります。あの変遷は、先生の内面が出ていたのでしょうか。

中村: よくヨーロッパに行っていた時代の仕事です。私自身はキリスト教徒ではありません。ありませんけれど、教会に入っていくと、やっぱり誰も頭をさげますよね。腰かけて、なんとなくじっとしていると、心が静まりますね。そのうち一番前まで行って、そうするとご利益がありそうで、祭壇を拝んで、お参りした気になってのこのこと帰ってくる。それが教会めぐりの私のスタイルなんです。そういう当時の(祈りの)心境を表現しています。

薬師寺の東塔のレリーフを制作中

山道: 先生が作られた、薬師寺の西塔のレリーフ(★2)はぜひ見に行きたいです。ところで、レリーフは、かなり大きな作品ですが、体力的には大変ではないのでしょうか。

野間口: 大変です。

山道: 像と違って、立体的にはなっていますが、裏は平面ですから、少しは楽かもしれませんが、それでもあのサイズだと大変ですよ。

野間口: なぜ90歳になられて、今までで一番大きなものを作らないといけないのか。(笑)現在、東塔の四面のレリーフを作っていますが、まだ全部出来上がっていません。三面目を今年の秋までに終え、もう一つを...

中村: 来年の末だな。

野間口: その間に一つ作らないといけないうが入っているの、少し遅れそうですが、東塔に入るのが4年後の予定なので、それに間に合うようにでしょうか。

山道: 一つ作るのにどれ位かかるのでしょうか。

中村: 半年くらいです。

山道: 毎日やって180日。

中村: 仕事っていうのは不思議なもので、それだけはやらせてもらえない。他の仕事も入ってきますからね。他の仕事が入ってくるとすぐ半年から1年は延びちゃいますから。

山道: そもそも日本以外で、木造建築がこんなに残っているところはないんじゃないかと思いますが、千何百年経っている建物を解体修理して、中に現代の作家のレリーフが入る。日本は、すごい国ですよ。本当に素晴らしいことです。

中村: 東塔は国宝ですから。そこに平成の新しい文化をいれたいだけなのは、柔軟だと思えます。

田邊: 千年後も残っているのでしょうか。

中村: 千年後に見てみたいね。

(2017年5月11日、中村晋也美術館(鹿児島市)にて)

★1 Miserere。阪神淡路大地震からライフワークとなる「祈り」をテーマに制作。

★2 釈迦の生涯で重要な八つの場面を表した「釈迦八相像」。西塔に四面(果相)が置かれ、東塔に置かれる四面(因相)を現在制作中。

彫刻家

大阪取引所

中村晋也 × 山道裕己



五代友厚像の制作と建立除幕式の風景



渋沢栄一銅像(日本橋常盤橋公園)を視察



制作のための五代友厚原型像(50センチ)



五代友厚像の制作風景



台座にサインする中村晋也先生



2004年12月1日 大阪証券取引所発祥の地を記念し、五代友厚像の建立除幕式が行われた。

